「紀要」第六十輯を記念して

学長　前之園幸一郎

本学の紀要が今号で六十輯を迎えました。創刊は、短期大学としての本学のスタートの翌々年、つまり昭和二十七年七月でした。初期には年に二回刊行された期間もありました。しかし、その後、編集の仕事を担当する教員の負担が過重にならないように、さらに充実した内容のものとするために、一九六一年から紀要は年刊として発行されて今日に至っています。その六十輯までの歩みは、本学のそれぞれの時代の貴重な歴史を伝えております。例えば、一九六〇年ならびに一九六一年の紀要は「開学十周年荒牧教授還暦記念号」（第十四輯）、「馬越教授還暦記念号」（第十五輯）として刊行されています。これは、本学がまだ組織的に小規模で、大学発展の基礎が緊密な一致協力によって築かれつつあった時期の雰囲気を物語っています。理想と信頼の絆で結ばれた教授会の主要部分を構成する若い教師たちは、「還暦記念号」の発刊によって先輩のベテラン教授たちの労に報いたのだと思われます。今日に伝わる本学の伝統形成の過程のヒューマンな一側面をそこに見ることができます。

大学の使命は、言うまでもなく教育と研究活動にあります。その研究活動に注目して、紀要の中に、一九七〇年から教員の知的活動の成果に関する青山学院女子短期大学「研究成果一覧」のページが設けられました。それは、本学教員の研究業績を一年ごとに公表するものであります。その趣旨は、「本一覧は、本学の研究機関としての成果を一覧し、今後の発展に資するとともに、それぞれの関連領域において、広く外部の方々にも成果をご利用いただくことを目的として、作成したものである」と記されています。高等教育機関における自己点検・自己評価の必要性がかまびすしく叫

ばれるはるか以前に、本学においてはすでに研究活動の重要性の認識とその水準の維持・発展のための努力が自覚的に重ねられていたのです。

本学が誇る特色の一つは、多様な学問領域の専門家からなる教員組織にあります。前述の「研究成果一覧」は、個々の教員の持つ能力と専門的知識を組み合わせて集団的な力にまとめる作用も果たしています。専門領域と所属学科の壁で隔てられた教員たちが、共同研究を展開することを可能にしたからです。その成果の一つが、現在開講されている「総合科目」であります。四名の教師が専門横断的に学科の壁を超えて、統一テーマのもとに半期ないし通年の授業を行います。具体的には、「女性と身体」「ルネサンスの文化・社会・自然」「平和について学び考える」などをあげることができます。これらは、文学、法学、哲学、文化人類学、科学史、女性学などの視点から問題を多面的・複眼的に解明しながら生きた問題を正面にすえて学生に積極的に学ぶことの意味と喜びを教えております。

本年三月には、本学は、第三者による評価により「適格と認定する」との認定証を短期大学基準協会から授与されました。その評価において調査委員たちが注目したのが水準の高度な青山学院女子短期大学紀要の存在でした。本学紀要の六十輯の刊行を喜ぶとともに、われわれの研究活動のさらなる発展を期待いたします。